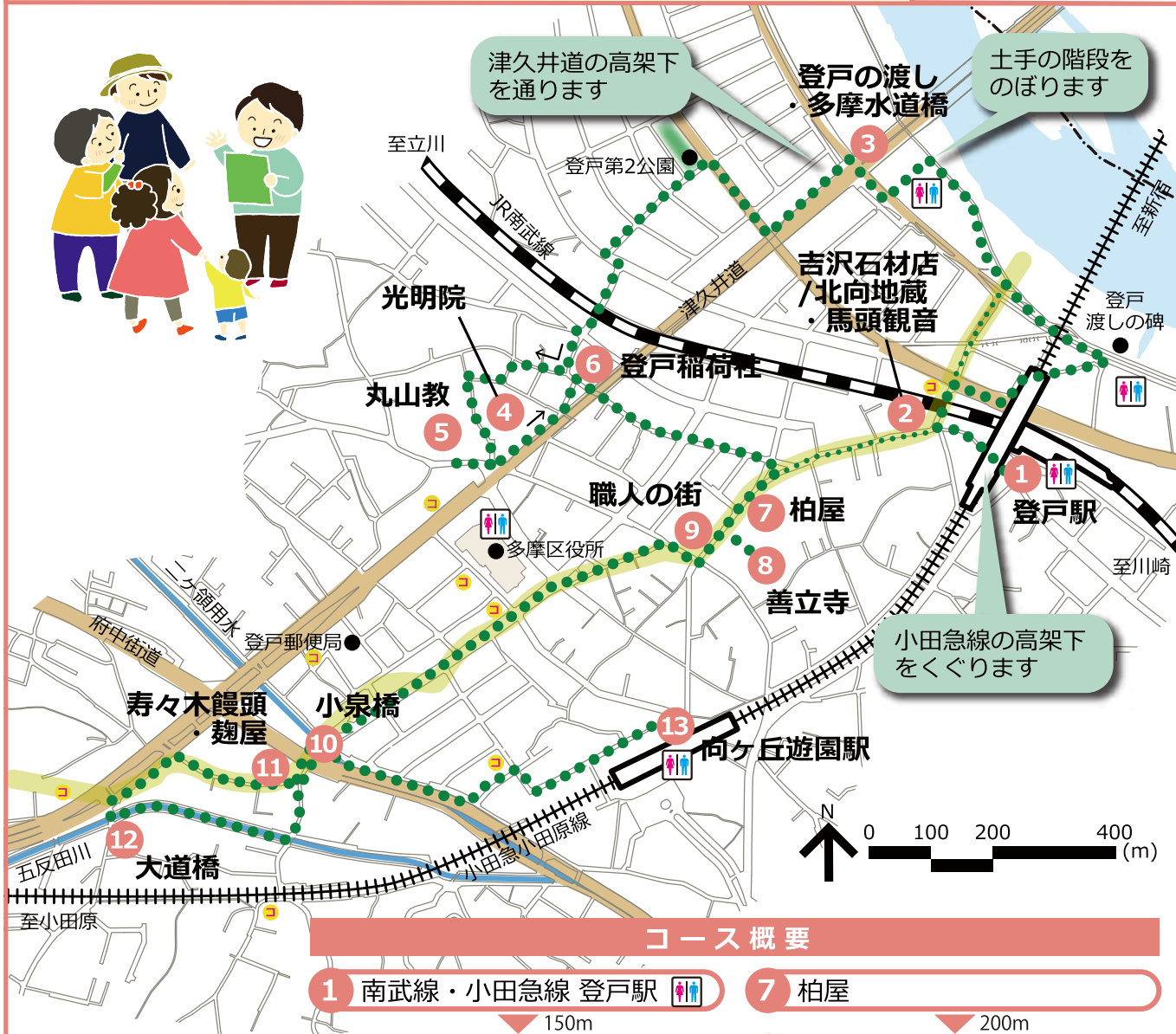


旧津久井道と職人の街を歩く

旧津久井道は、江戸時代より、炭や柿などを江戸城下に運ぶ道でした。このコースでは今はない下駄、提灯、馬具などの職人の店が並んでいた、旧津久井道・登戸宿の面影をたどります。

距離：5.5km
時間：3時間
難易度：ふつう



コース概要

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 南武線・小田急線 登戸駅 | 7 柏屋 |
| 150m | 200m |
| 2 吉沢石材店/北向地蔵・馬頭観音 | 8 善立寺 |
| 900m | 200m |
| 3 登戸の渡し・多摩水道橋 | 9 職人の町 |
| 1,050m | 650m |
| 4 光明院 | 10 小泉橋 |
| 150m | 150m |
| 5 丸山教 | 11 寿々木饅頭・麴屋 |
| 300m | 350m |
| 6 登戸稲荷社 | 12 大道橋 |
| 400m | 950m |
| | 13 小田急線 向ヶ丘遊園駅 |

凡例

- ルート
- サブルート
- 旧津久井道のルート
- 1 主なみどころ
- トイレ
- コンビニ

旧津久井道

旧津久井道とは、生田・柿生・鶴川に向かい、その先鶴見川上流に沿って橋本から津久井地方に至る江戸時代からの道で、東は多摩川を渡り三軒茶屋で大山街道と合流して赤坂御門まで続いている道です。

近隣の産物を江戸へ運ぶ流通の道、商人や職人の往来する道として使われ、登戸周辺は宿場として発展しました。



吉沢石材店 / 北向地蔵・馬頭観音

吉沢石材店は、多摩川の水運と津久井道の利便で繁栄した江戸後期からの店です。

伊豆や真鶴の石材は渡し場のすぐ下流にあったよどみから荷揚げされ、その船着場は「石屋河岸」と呼ばれていました。また向い側角の北向地蔵と馬頭観音は江戸時代のもので、特別なご利益がある子育て地蔵・馬の保護神として登戸を中心に広い地域の人々によって守られてきました。



登戸の渡しと多摩水道橋

昭和 28 年（1953 年）に多摩水道橋が完成するまで、この場所には橋がありませんでした。多摩川に橋が架かるまで、川崎と東京を結んでいたのが渡し船で、下流から六郷・矢口丸子・二子そして登戸・菅にありました。多摩水道橋は東京都に水を送るためにできた水道との併用橋とされ、この橋の完成によって「登戸の渡し」はその長い歴史に幕を閉じました。



光明院

光明院は室町時代後期に開かれたと伝えられている真言宗の寺です。本堂の向拝は旧登戸小学校の玄関の廂が移築されたもので、境内の太子堂には建築職人が信仰する聖徳太子が祀られています。明治 6 年（1873 年）善立寺の仮舎でスタートした登戸学舎は、6 か月後に光明院に移され、3 年間ここで授業が行われていました。



丸山教

丸山教は富士山信仰のひとつで、丸山講をもとに明治初期に登戸で生まれた宗教として全国に広がり、多い時には 138 万人もの信者がいたといわれています。また「多摩川音頭」でも紹介されている有名な藤の花を詠んだ北原白秋のうたの石碑が現在も残っています。



登戸稲荷社

登戸宿は左官職人の多い町で、登戸の鎮守稲荷社には四方の壁に漆喰彫刻（コテ絵）が現存しています。これは嘉永年間（約 150 年前）のもので、左官名人といわれた伊豆の長八の高弟である江戸芝の庄太郎の作と伝えられています。



柏屋

登戸は、小杉や溝の口に比べ、居酒屋・煮売屋等が多い、盛り場的な賑わいのある宿場でした。その中で柏屋は、旅人を泊めていた登戸宿場時代からの老舗です。明治の末には料理屋を兼ねるようになり、多摩川行楽客に鯰（なまず）料理等を振る舞い、喜ばれたとされています。現在も「鯰のスッポン煮」を食べた有名人の句碑や鯰の絵、石碑等が残っています。



善立寺

善立寺は、明治 5 年（1872 年）明治政府より「小学教則」が發布されると、翌 6 年（1873 年）には早くも「登戸学舎」として本堂で小学校教育をスタートさせたという、「小学校教育」発祥の場所です。また江戸時代後期に、二ヶ領用水の水利権争いが 40 年にわたり続いたとされる記録「用悪水出入一件」（古文書）が今でも残っており、また名主や年寄りと共にこの争いの調停に奔走した玉川屋敷井上弥兵衛が建立した妻の供養塔も入口に建てられています。



職人の街

津久井道に沿うこのあたりは登戸宿場町といわれ、江戸末期頃より製造業の戸数が多く、下駄づくり・干菓子づくり・紙漉き・馬鞍づくり・提灯づくり等、種類も豊富な職人の町でした。さらに左官職人が多い町としても知られ、登戸の左官屋といえば横浜、八王子、埼玉方面まで評判が伝わっていたといわれています。

小泉橋

小泉橋は徳川家康の命により造られた多摩川水系最古の農業用水路「二ヶ領用水」に架けられた橋で、豪農小泉利左衛門により天保 15 年（1844 年）に木造の橋から石造りの橋に架け替えられました。現在は、区画整理に伴い、石造りの橋も架け替えられ、以前の面影はなくなりましたが、歴史的に重要なものでした。

府中街道と交わる榎戸と呼ばれたあたりは、津久井道につながる交通の要路として繁華な場所でした。



二ヶ領用水

二ヶ領用水とは多摩川から中野島の上河原堰と宿河原の宿河原堰から取水している農業灌漑用水で、徳川家康が代官小泉次大夫に命じて 14 年の歳月をかけて慶長 16 年（1611 年）に完成しました。江戸時代の稲毛領と川崎領に亘る総延長 32km で神奈川県最古の人工用水であり、平成 24 年度（2012 年）土木学会「選奨土木遺産」に認定されています。

桜の名所としても知られ、毎年春には桜まつりが開かれ、多くの花見客で賑わいます。



寿々木饅頭屋・麴屋 / 大道橋

2 軒の老舗の前を通り津久井道に出て少し西に進むと、五反田川に架かる大道橋があります。この橋のところで、道は津久井方面と菅生方面に分かれる「追分」となり、その地の利をいかし、明治 20 年（1887 年）頃から「そくざし（仲買人）」商売が始まったとされます。東京から繭の仲買人である絹問屋の荷車や馬車が、繭を運ぶために毎日のように往来し、また馬宿・たばこ屋・床屋・傘屋・車大工等が並ぶ賑やかな場所として、追分はよく知られた場所でした。



小田急線「向ヶ丘遊園駅」

昭和 2 年（1927 年）に小田急線が開通、当時の駅名は「稲田登戸駅」でしたが、向ヶ丘遊園の再整備に伴い、昭和 30 年（1955 年）に現在の駅名となりました。北口駅舎は建設当時のままの姿であり、昭和のレトロな雰囲気のある屋根の形が、なつかしい趣を醸し出しています。

